

# アジアの学生と出前講座

## 東京海洋大

### 子どもの未来へ

大学の挑戦

東京海洋大(港区)がアジアのトップレベルの大学と提携し、「高大連携プロジェクト」を始めた。ペットボトル、段ボール箱、生ゴミ……海に捨てられだまきまなゴミの絵だ。

「How long does it take until it has gone? (ゴミがなくなるのに、どのくらいの間かかると思っ?)」

## 高校生に英語で

生徒たちに問いかけたのは、東京海洋大とシンガポール国立大、台湾大学院の学生3人。海洋汚染の問題を考える授業で、高校生たちはグループ別に話し合い、英語で発表した。

「We think that

cardboard box will last for one year (段ボール箱は1年間はなくなりませんと思えます)」

アジアの学生は、英語の教育を使い、身ぶりを交え専門誌が発表した昨年の世界大學生シンポジウムでアジアの5大学と初めて企画した。海洋生物学や海環境保護などを研究する学生や大学院生ら、5人の一人は「環境問題は世間で環境問題をテーマに講座内容を考え、講座の依頼があった文京学院大女子高の7学級で教壇に立った。

学生たちは、ゲームやプロジェクトを始め、学生たちは現地で調査研究に携わったり、日系企業で研修し、自分の研究テーマを紹介したりして、高校生たちの関心を引きつける工夫を講じた。派遣された学生たちが今回の出前講座にも参加した。

「外国人の学生と話し合うことで、コミュニケーション能力が鍛えられた。授業を通じて専門知識を深め、プレゼンテーションやコミュニケーション能力を磨く」と話した。高校生は世界に目を向けるきっかけを得たり、大学教育を身近に感じたりできる」と話す。将来、今回の出前講座をアジア全域から、提携するアジアの大学に立ち上った東京海洋大やアジアの大学の学生たち=文京区



高専での出前講座で教壇に立ち上った東京海洋大やアジアの大学の学生たち=文京区

## 教える側も成長

東京海洋大は2013年大まかな出前講座をアジア全

## 私の理想図



小松俊明教授

## 学生が生徒に「感動と刺激」

グローバル体験を積んだ学生が、高校生をインスパイアする(感動と刺激を与える)「高大連携」を実践しています。日本だけでなく、アジア各地でも学生の新鮮な気づきや感動を積極的に共有することで、多くの人をインスパイアしていきたいと思えます。

2016 4/9 朝日新聞 東京版 朝刊